

(発行 2018年3月16日)

NHK ラジオ深夜便「明日への言葉」
2018年3月23日(金)4時台放送

「捕虜たちの言葉に耳傾けて」

岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授 中尾知代



お話して下さったのは、岡山大学准教授の中尾知代さんです。中尾さんは、オーラルヒストリーという学問をイギリスで学び、日本にオーラルヒストリー学会を立ち上げた方です。オーラルヒストリーというのは、年月とともに消えてしまう庶民の経験、体験、感情などの記憶を映像や音声で残し、人類の遺産として残し人類の未来の幸せのために残していこうという学問だと思います。この学問は、イギリスが盛んで、戦争体験だけでなく、あらゆる職種や業界の体験について、オーラルヒストリーがあるという事です。

今回のお話は、戦争体験から平和を考えようというもので、発端は、日本軍に虐待されたイギリスの捕虜体験から始まっています。太平洋戦争末期には、北海道留萌沖での対馬丸事件、沖縄近海の学童疎開船が米潜水艦攻撃で、数多くの学童が死亡した事件。日本軍の捕虜となった連合軍兵士も日本本土での強制労働の為、日本に送られる途中、味方の米潜水艦攻撃で命を落としました。有名なのが800人もが死亡したリスボン丸事件で、その時の生存者の証言では船倉から脱出する際の争いは芥川龍之介の「蜘蛛の糸」さながらの状況だったと言います。一方で、植民地政策で世界を牛耳っていたイギリスは、広大な植民地からの兵士を送り込んでいました。中尾さんは、アフリカまで何度もその戦争体験を聞き取り行きました。私が初めて知ったのは、日本兵が、逃げ帰るとき数多く餓死して、ジャングルが白骨化街道とまで言われたインパール作戦・ビルマ戦線に、アフリカ・ケニア兵が参戦していたことでした。

そのケニア兵は、戦後、ケニア独立の戦いに参加することになりますが、ビルマの戦線では、恨みに思うイギリス兵を、何人も後ろから撃ち殺し、それを日本軍のせいにしたという証言がありました。戦争になれば、何でもありの世界。恐ろしいことです。

日本は、戦後70年以上、戦争経験していないありがたい時代でした。今、シリア、中東、アフリカなど世界で、戦争が止むことはありません。「戦争は絶対ダメよ」という戦争経験者が少なくなりました。グアム島から引き揚げてきた横井庄一さんの言葉「戦争は、欲望が引き起こす。」我々一人一人に問われている言葉だと思います。追記：中尾さんの聞き取りには、イギリスで、捕虜たちに罵倒されながら、、大変苦勞があることがわかりました。最終的には人と人の繋がり不思議な縁、、そこに生まれた信頼がいかにか大事なことと気づかせてくれます。

坂口 憲一郎

編集室から(高館千枝子: tchieko@cocoa.ocn.ne.jp)◆感想の送り先: 坂口憲一郎 sakaken1943@gmail.com

◆「ハソウを愛する会」会長 坂口宗憲(憲一郎)氏は、「唐丹希望基金」が釜石市立唐丹中学校卒業生10名に、震災で亡くなった方の鎮魂と平和の思いを込めた「笛壺ハソウ」を贈る日に合わせて、「ハソウ継承認定証書」を授与致しました。

